

榎の木だより

2020年 7月
号外

発行：榎の木福祉会（法人本部）
 一宮市富田字砂原 2147
 Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

榎の木福祉会 ホームページ
[http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)

ひとりひとりひかる

きぼう



三密をさけて

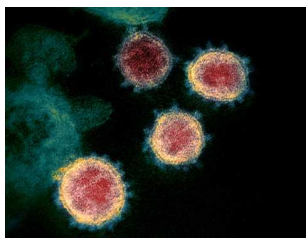
新型コロナウイルスの感染防止の為に、各地域のイベント・集会が中止されました。榎の木福祉会も、運動会を中止し、盆踊りも中止と決定しました。榎の木福祉会創設40年目にして、初めてのことです。

こんな中、各事業所は、感染防止策の工夫をしながら、独自で運動会を催したり、園芸活動などをおして元気に活動しています。

コロナ禍

長年私たちは、暮らしやすい、安全な社会の中で生まれ、私たちはその中で生かされてきました。コックを回せば、水が出て、スイッチを押せば、明るさが得られます。過剰なほどの食糧もあります。新しく芽を出した木々も、水が撒かれ、肥料を与えられ、日光まで補償してもらえます。大木に育つために。

『三密を避ける。』『不用不急の外出をなくす。』『県外移動自粛』『集会の中止』いろいろな防止標語ができました。『ステイホーム』『クラスター』『アラート』『ロックダウン』『ソーシャル・ディスタンス』日頃聞きなれない言葉が出てきました。かつて体験したことがない、大変な社会になったと思います。目に見えない恐怖に、人類が問われています。この災いに、どのように対処していくかを。



日本全国、各地で新型コロナウイルスの感染者が出て、緊急事態宣言が行われました。愛知県も、遊興施設、スポーツ施設、集会場、展示場、劇場等が休止の対象となりました。大学を含む、小中学校、高校、特別支援学校さえも、休校となりました。

その様な中、基本的に休止を要請しない施設として、社会福祉施設等があります。当然、適切な感染防止対策の協力要請も同時に出されました。

愛知県障害福祉課からは、緊急事態宣言発令前も、後も、そして解除後も、障害福祉サービスの事業者へ、一貫してサービスの提供を継続することと、感染防止の対策を講じつつ利用者支援を提供することという依頼がありました。

放課後デイサービスは、特別支援学校等の休校によって困っている児童等を、時間を延長するなど弾力的に受け入れるようにとの要請がありました。

コロナウイルス感染の心配は、それぞれの職員の心の隙間にも、入り込むかたちともなりました。ご主人の会社で、感染者がでました。他の障害者施設でクラスターが発生しました。自分の子供が発熱しています。そういう情報が、職員一人ひとりの心を揺らします。自分の家族に感染者がでたらどうしよう。利用者さんが感染したらどうしよう。そして、自分にも感染したら・・・

こんな時こそ、「ワンチーム」です。私たちは、困っている方々を支援するための仕事に就いています。もし、入所施設で利用者・職員に罹患者が出て困っているとします。その場合、通所事業所では、事業を止め利用者に控えていただき、そこの職員は、入所施設にて防護服を着て支援にあたることさえあると念頭においておかなければなりません。「オール檜の木」の体制が必要なのです。今、職員は、この災害に試されているのです。それができるかどうか。

数百年、生きてきた大木は、その幹に年輪という歴史を刻みます。大地震の折にはその揺れに耐え、洪水の折には泥水に幾日も浸ったことでしょう。そういう災いがあった年は、年輪が他の年より濃く残ります。それらの、災害に打ち勝つために、幹を強くするためだそうです。

私たちは、長年生きてきた大木のように、この
コロナウイルスという
災害を深く年輪に刻み、これからも来るかもしれない第二波や、また違った災害に立ち向かう力としていけたらと思っています。



事務局 只井秀明

GHC かしの木

GHC かしの木ではスタッフ全員のマスク着用とアルコール消毒を取り組みとして始めました。利用者については、可能な限りマスクの着用していただきました。

その後は、毎朝スタッフ、利用者の検温を行い、微熱があればホームで静養していただきました。

また、家族の方の面会、外出等、通所事業所以外の外部との接触をできるだけ抑えるよう取り組み、現在も状況に応じた対応をしています。

基本的にグループホームは「家」扱いのため、アルコール消毒液やマスクについても、その需要に間に合う確保ができるかどうか大変不安でした。幸い、それまで多めにアルコール消毒液などを備蓄しており、それで対応できました。

今後、予断が許さない状況のもと、利用者がホーム利用中に感染もしくは濃厚接触により自宅待機になった場合は空室等を利用し、1つのホームを空け、法人全体で対応していくことを考えています。



はなももの家 食事風景
管理者 武田 信之

ステップ

ステップ（明地・西島・わがんせ・さいた）は新型コロナウイルス感染症の経済的な影響の直撃に会いました。学校が休校になる等の影響により「わがんせ」のパンの出張販売先がなくなりました。取引先からいただいているお仕事も受注が不安定となり、仕事の確保に四苦八苦しました。現在は学校も再開されたため、新型コロナウイルス対策をした上で出張販売を再開しています。またお陰様でお仕事もたくさんいただき忙しくさせていただいています。



尾西高校パン販売
管理者 古川 和弘

櫛の木園

櫛の木園では、登園前の検温の実施や日中の手指消毒、換気を行っています。C a f eふらつとも一時休業としました。外出自粛となり、ドライブ先の公園が休園となり行き先が限定されてしまったことで、活動の幅も狭くなりました。また法人行事の運動会も中止になりました。その為、余暇活動の充実を図るため、この期間にバーベキューやミニ運動会を行い、楽しめる時間を多く設けられるよう努めました。



ミニ運動会
管理者 加藤 栄治

櫛の木作業所

新型コロナの感染者が一宮市内で出始めたころ、様々な噂がまことしやかに耳に入ってきました。そんな話を聞いた時、今までと同じように事業所を開所していいののかと危機感を持っていました。利用者、職員を守るためにはどうしたらよいか…、もし誰か1人でも感染したら…、利用者や職員の家族の誰かに濃厚接触者が現れたら…、送迎のバスはどうしたら…、バスを利用している方に感染者が出たら、他の事業所にも影響があるのでは…、いろいろな可能性とリスクが次から次へと思い浮かびました。結局のところ、特に、対人援助の職場においては感染のリスクをゼロにすることは不可能です。医療のプロでも感染してしまうのですから。

そんな中、作業所の取り組みとして職員、利用者のマスクの着用と手洗い、消毒の励行や換気を重点的に行いました。たしかに、手洗いやマスク着用が十分にできない方もみえました。バス内や作業室、食堂等どうしても3密になりやすい環境もありました。

しかし、これからも利用者、職員を守る為に引き続き出来る限りのことに取り組んでいきたいと思えます。



室内バーベキュー
管理者 伊藤 豪

檜の木福祉会の店舗の状況



カフェふらっと

6月1日から

通常営業



喫茶らちえっと

6月2日から

通常営業



おやまのカフェ

6月15日から

室内も営業



わがんせ

通常営業



ご寄付の御礼 今回、有志の方から、マスク等のご寄付がありました。

5月25日 有志Aさん マスク 1800枚

5月26日 有志Bさん 100,000円 マスク 150枚

5月28日 有志Cさん マスク 1800枚

ありがとうございました。



編集後記

広報「きぼう」は、平成7年に創刊されて、今回で100号を数えます。記念特集号として、令和2年7月1日に発行をめざしたのですが、新型コロナウイルス感染防止のために、発行を延期することにしました。今回、「新型コロナウイルス関係」の記事を中心に号外を発行しました。次回、10月1日発行の「きぼう」100号・記念特集号を楽しみにお待ちください。

お知らせコーナー

中止にさせていただく行事

チャイフ夏祭り

檜の木盆踊り大会



残念!
また来年!

【 行事予定 7月~12月 】

検討中の行事

かしのホフェスティバル

日時・・11月15日(日)9:30~

場所・・富田山グランド.

新型コロナウイルス感染がおだやかに
なりますように